

1. 活動報告（事務局 記）

—9月7日（日）参加者は16名でした。

- ① 田んぼ周囲、水車水路全般、草刈り片付け
- ② 池ゾーン破損橋の修復、
- ③ エコアップ 湿地帯内スゲ間引き、草原の川内の溝蕎麦取り除き

—9月12日（金）午後5時～6時 と9月13日午前10時から12時

同9月13日午後4時から6時

- ・草刈り（田んぼ周囲残り、池内島、草原残り）及び草片付け、ハス田ネットの整理等
- ・田んぼ害獣防護網の解体保管と畦周り草刈り、整理

活動参加者 原田賢、吉富匡、原田マ、他地域応援大空さん

—9月20日（土）ミーテング ①11月15日午後の来客案内担当3名募集 ②活動日の残務作業の解決方法として毎回の活動日前に呼びかけあって参加者を増やす事になりました。

午前 16名の参加でした。

エコアップ（湿地帯八橋周囲のスゲ抜き・刈り取り、草原の川中のミズアオイ抜き取り
止水池のオオフサモ、ガマの穂抜き取り）

草刈り（駐車場平地部の刈り取り、他池周囲の刈り取った草の処理）

午後 里山自然観察隊（昆虫観察）隊員19名 保護者会員13名、会員スタッフ8名でした。

昆虫採集と観察 みんなでトンボ10種、蝶11種、バッタ他10種を見つけて取り観察しました。絶滅危惧種も見つかり大いに感激しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

—11月15日（土）厚東川水系 森・川・海 水環境ネットワーク協議会主催「平成20年度体験学習」 午後学習あり案内講師3名～4名ご希望

◎ 行事

—10月5日（日）維持活動エコアップ（スゲ、イグサ、アサザ、ヒツジグサ）

—10月18日（土）午前 稲刈り、はぜかけ

午後 里山自然観察隊（森の探検）

—11月下旬 - 「厚東川水系協議会・宇部市環境共生課・ビオトープを作る会」三者会議
“ビオトープ借用土地の協議会” 市役所会議所にて

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

—8月20日—

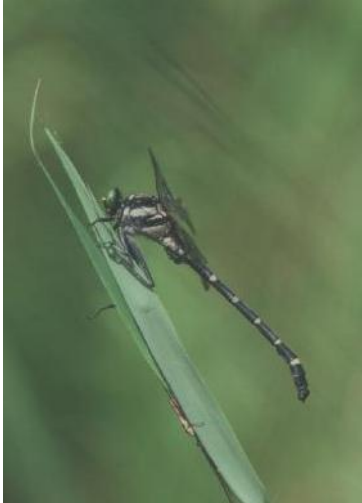
今日初めてしたことは。カモがオタマジャクシを食べることを初めて知った。僕も網でとってみた。ヘビも見た。水面をヘビが走っていてこわかった。

さいとうたつや

4. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) 管 哲郎

(4) コオニヤンマ (サナエトンボ科) *Sieboldius albardae* SELYS, 1886

サナエトンボの中でも大型種に属し、オニヤンマとよく間違われるトンボですが、空を飛んでいる時よりも枝先や木の葉や河原の石などに止まっていることの方が多いので、区別することがしやすいと思われます。北海道、九州、屋久島付近まで生息し、5月下旬～9月上旬ごろまでみられます。低山地のやや広い川や小川などの泥溜りなどに生息しますが、大きめの池などにも棲むことがあります。



コオニヤンマ (♂)



コオニヤンマ (♂)



羽化のために上陸した終齢ヤゴ



コオニヤンマの羽化

人が近付いてもすぐには逃げようとしないので、簡単に捕まえられると思うのですが、案外すばしこくなかなか捕まえられません。近付くとフワリと飛び上がり数メートル先にとまり、さらに近付くとまた逃げられ、のくりかえしとなります。

木の枝や葉にとまっている時は案外捕獲しやすいと思われます。一度ためてみて下さい。成虫は6月～7月にかけて多くみられます。

5. 会員の声 (原田満州夫)

“合鴨の飼育と稲作について -Part-1”

「ビオトープのマンネリ化を新規事業で変化をつける」これが合鴨農法の甘〜い考えの発端であった。考えれば良い事だらけである。田んぼは化学肥料、農薬を使わず除草、除虫をして収穫できて、更に鴨は食肉となって胃袋をうるおす。何羽かはビオトープのマスコットとなって見学者の癒しにもなる。

里山ビオトープの三大コンセプトがそこに見えた。全会員の力でこの活動を推し進めれば、各社新聞に記載されたような一大事業であろう。

ところがである！ 良いことばかりでなかったのである。

まず、合鴨のヒナの購入にあたっては“あそこで飼っているから分けてくれるのではないかな？” “テレビで合鴨の先駆者がインタビューで、さも簡単に面白そうに説明した話を持ち込む”等々初めからヤジ馬だったのではないかと疑う。ヒナの購入から大変だったのである。

購入の方法は、近くの小郡や船木の先駆者の家に行き、教えてもらうなどしたが最終的にはインターネットでの調査で購入が叶った。しかしまず第一番に売り手から言われたことは、飼うのは良いが飼育後の合鴨の処置を厳しく指導された。それは「子供が駄々をこねて愛玩動物を買ってもらうが、それが時間が経ち大きくなって、えさ代はかさばるとか面倒くさくなるので、飼育を放棄し、本来日本にいない外来種の発見が相次ぐような悪い例を創らないで欲しい。食肉にするまで、命を全うするまで面倒を見ること」と言われたのであった。

それでも捨て犬を拾ってきてすべて面倒を見るので飼ってよいかと 親に懇願する子供と同じ気持ちであったのだろう。 次回87号に続く

6. 里山自然観察隊 (昆虫観察、9月20日、隊員19名、保護者13名、会員8名)

台風一過、とても良い天気になり、子供達は大張りきりでビオトープへと向かった。トンボの管さんを除けば、チョウの藤井さんやバッタの松原さんも欠席のなかで、どうなる事かと思案しながら進めたが、予想以上に多くの昆虫を捕まえてくれた。専門家の管さんは、ギンヤンマやオオシオカラトンボは捕まえてもらったが、隊員の富田君は、コシボソヤンマ (ヤンマ科) を捕まえた。子供ながら、たいしたものである。最後に、管さんから網を使ってのトンボの捕まえ方を説明してもらったが、子供達が興味を持ってくれば、将来は昆虫博士も出てくかもしれないと感じました。

トンボ：コシボソヤンマ、ギンヤンマ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、ベニイトトンボ、ヒメアカネ、ウスバキトンボ、マユタテアカネ、ハグロトンボ、キイトトンボ

チョウ：アゲハチョウ、キアゲハ、クロコノマチョウ、ナミアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、ヤマトシジミ、ヒカゲチョウ、コムスジチョウ、キチョウ、ウラギンシジミ、イチモンジセセリ

バッタ他：トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、クルマバッタ、エンマコオロギ、コガネイナゴ、キリギリス、セスジツユムシ、コカマキリ、オオカマキリ

(西原 一誠 記)

7. 会よりの連絡事項（事務局より）

毎回の活動日参加の皆様にはこの夏大変ご苦勞様でした。あまりに暑く維持管理活動をできるだけ少なくするよう心がけ作業を短縮するようにしました。そのかわり維持管理に残務作業が少しずつ残りたまって個人的また地域の会員の方々の力を得て非定期活動で何とかひと段落しています。

さて「来年の話をするとう鬼が笑う」と言いますが今後の年度活動計画でぜひ考えておかなければならないことを挙げてみました。

- ① 会員の平均年齢が竣工した時分より9歳も年老いたこと。
- ② 会員は増えたものの活動参加の低迷。(竣工当時35/45人中 現在17/65人中)
- ③ 本来の視察者に対する活動より会員のための活動が増えていること。 椎茸栽培、そば栽培や合鴨農法による稲作、また経年の増殖野草のエコアップ等々活動に負担が多くなってきました。そこで来年度は活動内容の縮小が必要かと思われます。②の参加率が向上すればこの限りではありません。各自、意見をお寄せ下さい。

8. 編集後記

まったく活動に参加出来ず大変申し訳ございません、反省の気持も込め編集後記を、書かせて頂きます。話は我家の息子達です、長男が小学校低学年の頃は、毎週ビオトープで虫や魚を追い回していた日々が、大変懐かしく思い出されます。その長男も大きくなり、今年は高校受験・・・。

次男は、小学3年生、彼もここで、虫や魚を追いかける事には大変興味があるようで、今年はビオトープで色々な体験をさせるぞ！・・・と思っていますが、すでに秋の気配です。

先日、テレビで小学生がウシガエルを捕まえて、から揚げにして食べていた番組をやっていました。そして、我が国で問題になっている食物の自給率の問題を思い出しました。我家も次男とビオトープのジャンボタニシを食べる事には挑戦はしました。自給率って何処までの食べ物なのかな？ひょっとして、まだ結構高かったりして？

我家も次はカエルか？と思っています。皆様も如何ですか？

(若林 正治 記)